

アルファテック7

～不思議現象解明のツール～



パワーストーンへの応用の検討



アルファテック7

パワーストーン

脳波の学術的な分野での見解では、 α 波の出現するきっかけは不明であるものの、自発脳波が強く、誘発脳波は極めて弱いとされています。

つまり、外からの刺激で α 波は誘発されないとされています。どうも実感として納得できないので実験してみました。

タイのラックカイ洞窟で出現した神聖物の中から選んで頂いたもの(写真1)が何の作用もないとすると、あまりにも悲し過ぎます。

勿論 α 波が誘発されればいいということではありませんが、一つの指標です。



写真1 神聖物



写真2 神聖物

- 結果が図1で、
①何も持たない閉眼安静状態を基準にして、
②無作為に神聖物の一つ手にして瞑想する、
③目を開け手にした神聖物を確認し、アチャンの説明を思い出して、その効用をイメージして瞑想する。

この種の実験が困難なのは、被験者がどう思うかが結果に大きく影響するのです。いわゆるプラシーボ効果ですね。

何も手にしない閉眼安静の①に比べて、確かに②と③との値が大きくなっていますね。この種の実験が困難なのは、被験者がどう思うかが結果に大きく影響するのです。いわゆるプラシーボ効果ですね。

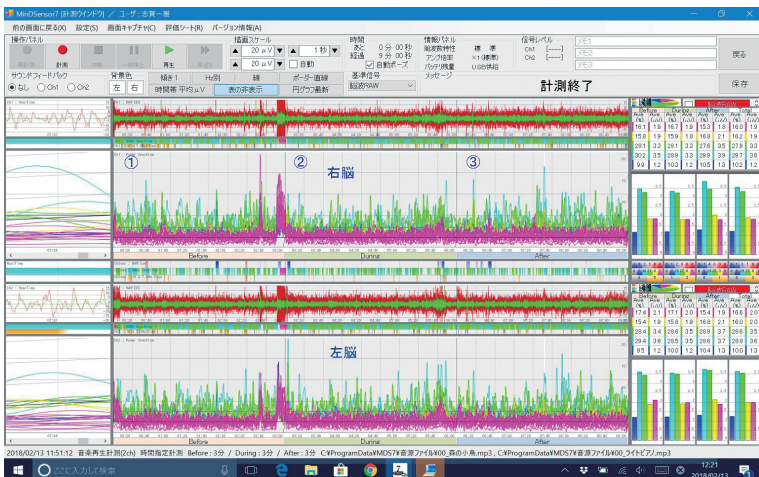


図1 パワーストーンによる脳波変化

量子力学の世界で観察者効果と言われている現象です。

現代科学は17世紀のデカルト以来、二元論が中心で心や意識の介在する現象は扱わないのです。それ故、ブラシボー効果は評価されません。

でも、いい結果が得られるなら、積極的にブラシボー効果を活用したらいいですよね〜。自己暗示の効用です。

10 Hzが優勢な状態で、言葉やイメージで意識した場合には脳の中での情報処理で、体の状態や行動に反映されるようです。



写真3 清田氏のスプーン振り

ところが、右脳と左脳とが7・8 Hzでコヒーレントになると(共鳴)空間にも強い影響を及ぼすようです。PKですね！

イメージの作用力

写真2は、アチャンが洞窟でマントラを唱えてイメージして出てきた神聖物で、本人が云うにはイメージした通りだ、と。

写真3は、清田氏がスプーンの振れをイメージをした結果で、皆の眼前で捻じれました。共に10 Hzと7・8 Hzの α 波が



写真4 パワー石の応用

強いときにイメージした現象です。

課題はどうしたらこのような脳波状態になるかですが、端的には瞑想を日課としてはどうでしょうか。まさにマインドフルネスですね。毎日5分間の瞑想をお勧めします。

そのための支えとなる道具として写真4に示すプレスレットが手軽でいいと思います。

スーパーガイヤプレスレットとして、エスパール清田益章氏がデザインし株式会社グランドの西田さんが製作したものです。



写真5 マインドセンサー7の企画会議

7つのチャクラの記号が刻み込まれ、ムウオアエインの音を中心で唱えます。何人かで唱えると倍音の響きが起きていい場が形成されます。

様々な実験結果を持ち寄り、アルファテック7をコントロールするソフトウェアの開発企画会議を行いました。

たくさんの方のパワーストーンに囲まれた雰囲気会議(写真5)はすぐ試し実験が出来て効率よく進めることが出来ました。

内容は技術的な検討段階です。まだまだ公開はできませんが、私の知る限り世界中探しても無いほどのユニークなものです。

この機関誌がお手元に届くころには完成していると思いますのでご期待ください。

祈りの効果

映画監督の白鳥哲氏に五反田の事務所へお出でいただき、いろいろ意見交換ができました。

(写真6)

「リーディング」という作品

アルファテックフ

不思議現象解明のツール

の公開直前というタイミングでした。

<http://officetetsushitori.com/>

20世紀最大の奇跡エドガー・ケイシーが遺したリーディングを題材にしたドキュメンタリーで、氏が主宰する「地球蘇生プロジェクト」の一環だそうです。

科学技術の発展で生活は便利になりましたが、心は自然から



写真6 祈りの効果

離れ、相争うようになり、何時のころからか人間の智慧で環境をコントロールし刹那的な効率と利益を求めています。

その結果、自然を破壊してしまいましたから、この素晴らしい地球環境を取り戻そうと活動されています。

「世界は祈りで一つになる」として「祈りの力」について掘



写真7 香を聞く

り下げています。

多くの宗教団体が世界平和を祈念する大法要を行っています。効果が全くありません。

これは「祈り」が「願望」になっっているからで、本来の祈りは「喜びと感謝」を奉げるものだと思います。

香りを聞く

ホンマルラジオのパーソナリティーされている如月香未さん

<http://honmaru-radio.com/category/kisaragi/>の依頼で香りを聞いているときの脳波を計測しました。

お香は「嗅ぐ」とは言わずに「聞く」と表現するそうです。脳波を計測してみてもその意味が初めて分かりました。

写真7はお香を聞いているときの様子を示し、図2は計測の結果をまとめてみました。

図2の左2つはお香無しで、Rが右脳、Lが左脳です。①⑤⑫までは10Hzのミッドα波が強くなり頭が冴える感じ。⑥⑪は7・8Hzのスローα波の方

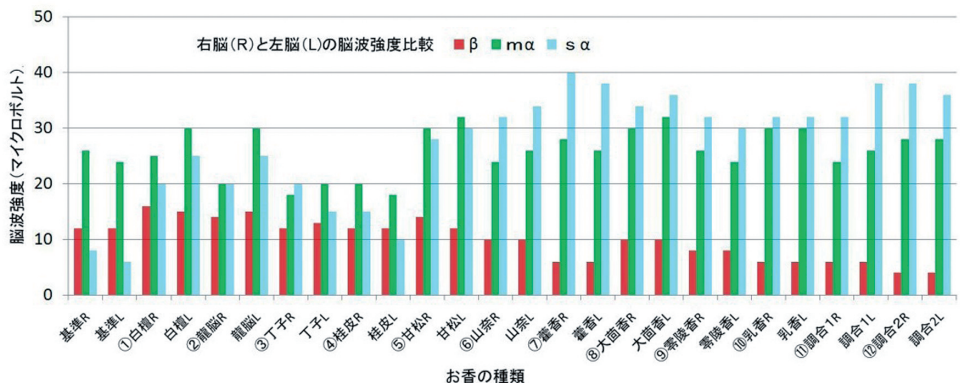


図2 香の種類による脳波反応

が強くなり、何か聞こえる感じ。だから「香りを聞く」と表現しているのですね。香りを聞こうとすると無心になり瞑想の目指す境地になるようです。

睡眠中の脳波

これまで私たちは睡眠中の脳波は θ 波や δ 波であるとして、それを疑わずに受け入れてきました。でも実際に睡眠中の脳波を測りますと θ 波や δ 波は殆ど見当たりません。

権威ある脳波の教科書を調べてもペンレコーダーに記録されるグラフを熟練者が目視で判定しているのです、信頼性があまりありません。

よく言われるREM睡眠やNon-REM睡眠も1950年代の報告で、最新の研究報告は見当たりません。

それゆえチャンスですからアルファテック7で睡眠中の脳波を測ってみました。小型ですから寢床に持ち込むことができますし、ノートPCに接続して朝まで計測可能です。

実際に測定してみますと、いくつか非常に面白いことが分かりました。

図3と図4とは結果の一部で、22時30分～23時00分と、午前

3時40分～4時10分のそれぞれ30分間の測定です。その中で特徴的なものを紹介します。

図3の①の部分は寢床に入る動作に対応する応答で、測定が気になってなかなか眠れないと思っていたら、脳波的には3分で眠っていますね。

②の位置で右脳に鋭い7・8Hzのスペクトルが観察され、これが宇宙のリズムの取り込みではないかと思えます。

右脳と左脳と殆どシンクロしていないことから、それぞれ独立の睡眠モードかと思われます。10分ほど静かな状態が続き③の位置で右脳と左脳と7・8Hzの鋭いスペクトルが見られます。ただこの場合は位相が逆になっています。

ところが④で位相が揃っています。この違いが何を意味するのかは今後の検討課題です。⑤を含め7・8Hzのスペクトルである点は注目すべきです。

⑤以降の脳波は振幅10 μ V以下の10Hzと7・8Hzとの共存で静かな睡眠モードでした。

この間に θ 波と δ 波が殆ど観察されていないことが何を意味するのか検討を要します。

図4は①の位置で目覚めたので測定一時停止でトイレに行き、戻ってからの計測です。この段階では右脳と左脳は完全に同位相で動作していることが示されています。

図の③には1秒間の変化を示しています。これによると右脳が先に反応し、0・5秒遅れて左脳が応答しています。

天からの空間情報は右脳で捉え左脳で意識化するのではないかと思われま。

観察者が居ないので分かりませんが②の位置がREM睡眠ではないかと思えます。左脳側は瞬時で目覚めませんでした。右脳では7・8Hzの反応が5分程続いていたので空間情報を取り込んだりエネルギーを取り込むのではないかと思えます。

図4の α 波の振幅強度を図3と比べますとほぼ半分となり、睡眠により脳内の情報処理活動は沈静化されたと思われま。

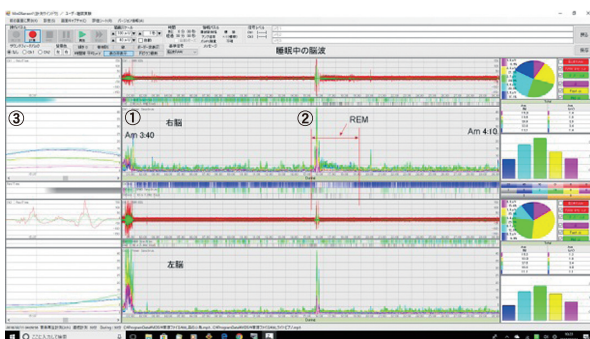


図4 午前3時40分～4時10分の脳波

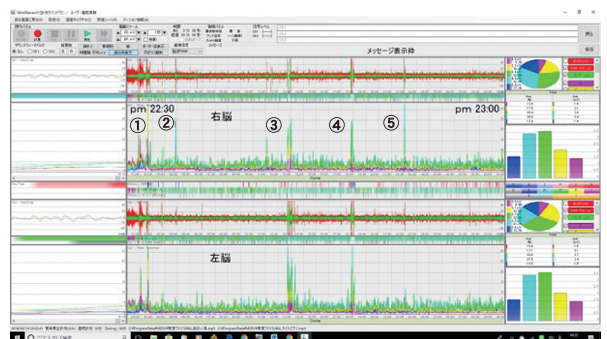


図3 22時30分～23時00分の脳波